

# コロナがもたらす 新しい生活様式への対応

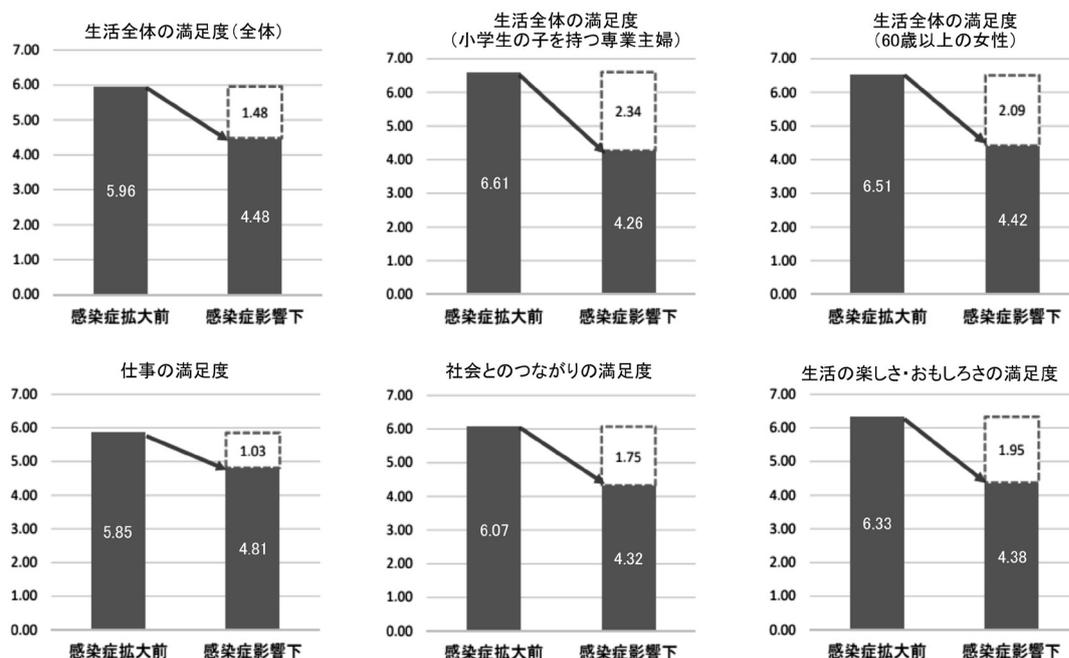
内閣府が2020年5～6月にかけて実施した調査によると、コロナ感染症拡大前と影響下を比べると、生活全体の満足度が大きく下がっている。特に「小学生の子を持つ専業主婦」「60歳以上の女性」で大きいようである。

テレワークにより通勤時間が減り、その結果、可処分時間（自由に使える

時間）が増えた人がいる。一方で、外食の減少、在宅率の増加により、家事時間が増え、可処分時間が減少した人もいる。

弊社調査によると、コロナ感染症拡大前と影響下で、可処分時間が増えた人、減った人、変わらない人の割合は各々3割ずつと3分された。

■図表1 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化



出典：内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」令和2年6月

また、朝日新聞の世論調査によると、在宅時間増加により、ストレスが増えた人は61%、男女別では男性が51%、女性が70%と女性の方がストレス増加傾向が高いという結果であり、女性における家事時間の増大がストレスにつながっている部分もあると思われる。

一方、Google コンシューマーマーケットインサイトチームによる昨年の緊急事態宣言以降の継続的な意識調査では、「生活に対して『前向きな気持ちを持つ人たち』は、プライベート時間においても、より能動的にオンラインを活用しており、生活環境の変化に対応し、先立って新しいオンラインサービスを試してみる姿勢は、暮らし全般に対する前向きさと無関係ではないようである」としている。中でも、「友人や家族、

知人とはメールやメッセージを介してコミュニケーションをとったり、各種SNSを積極的に利用したりと、互いを支え合う行動」が顕著だったという。

生活の満足度は、「可処分時間をいかに能動的に、自分がしたいと思うことに使えるか」「自分だけではなく他者(社会)とのつながりの中で過ごせるか」と大きく関わっている。オフラインによる活動が制限される中、オンラインはそれを補完するだけではなくプラスのものを創造する可能性がある。

今後、ワクチンの普及により、「仕方なく新しい生活様式をとる」ことから、本当の意味での「新しい生活様式」が始まっていく。可処分時間の使い方と満足度の指標も、また変わってくるだろう。